

保護者様

横浜市立田奈小学校
校長 酒井 浩明

全国学力・学習状況調査についてのお知らせ

平成31年4月に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の調査結果がまとまりました。この調査結果を踏まえ、今後の本校としての取り組みについてご説明します。

保護者・地域の皆様には、本調査の趣旨を十分に理解した受け止め方をしていただけるようお願いいたします。

1 本校と横浜市・神奈川・全国の平均正答率の比較から見える本校の結果

◎ 調査結果から見る本市の特徴

中学校では、英語において、全国の平均正答率に比べ4ポイント高い状況が見られました。また、小学校では、算数において、全国の平均正答率に比べ2ポイント高い状況が見られました。

【平均正答率(%)】

	小学校		中学校		
	国語	算数	国語	数学	英語
横浜市	63	69	73	60	60
全国との差	-1	+2	±0	±0	+4
神奈川県	61	67	73	59	59
全国	64	67	73	60	56

※ 平成31年度学力・学習状況調査は、全ての教科において知識と活用を一体的に問う問題形式となったため、昨年度まで示していたAB区分がなくなりました。
 ※ 全国の平均正答率については、文部科学省の許可のもと整数値に直して表しています。
 ※ 横浜市、神奈川県、全国の値は、公立学校の平均正答率です。

※令和元年7月31日付け 横浜市記者発表資料より

国語では、横浜市は平均正答率が63で全国より1ポイント下回る結果となりましたが、**本校は、65**となり全国より 1ポイント横浜市より2ポイント高い結果となりました。要因としては、14問中、9問で正答率(%)が上回る結果が出たからだと考えられます。

算数では、横浜市は平均正答率が69で全国より2ポイント上回る結果となりました。**本校も69**となり全国より 2ポイント上回る結果となりました。要因としては、14問中、12問で正答率(%)が上回る結果が出たからだと考えられます。

2 よい状況と考えられる内容

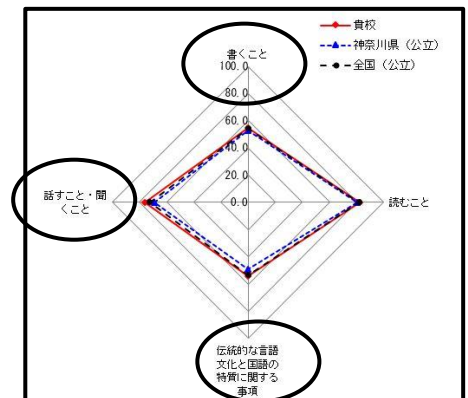
<国語>

・【書くこと】

目的や意図に応じて、**自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くこと**ができます。

・【話す・聞くこと】

話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をすることができます。



・【伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項】

文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くことができます。

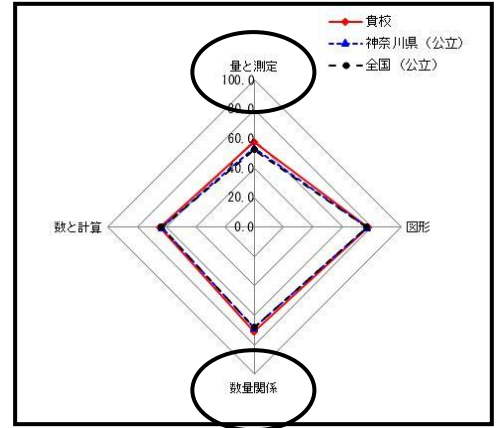
<算数>

・【量と測定】

資料の特徴や傾向を関連付けて、**一人当たりの水の使用量の増減を判断し、その理由を記述することができます。**

・【数学的な考え方】

示された減法に関して成り立つ性質を基にした計算の仕方を解釈し適用することができます。



3 指導・改善が必要と考えられる内容

<国語>

・学年別の漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使われている時とそうでない時の差が大きいです。

例：かんしんをもってもらいたい

<算数>

・加法と乗法の混合した整数と小数の計算が若干苦手です。

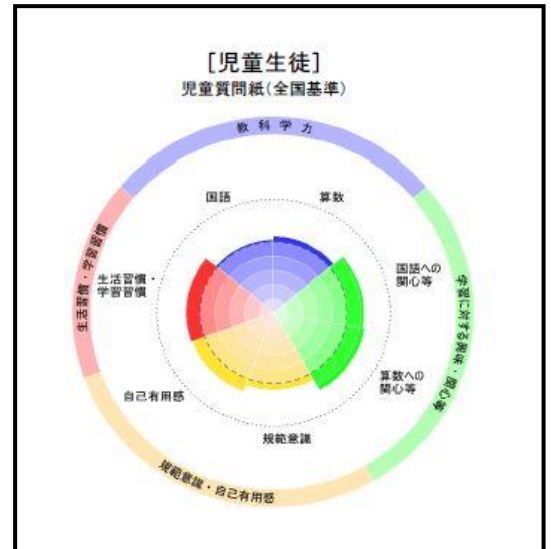
例： $6+0.5\times 2$

・示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算しやすい式にして計算する問題の正答率が若干低いです。

例： $600\div 15$ を計算しやすい式にして計算する。

4 質問紙調査結果から（顕著な傾向、全国平均との比較）

- 国語や算数が**将来に役立つ学習であること**を理解して学ぶことができます。
- 回答した児童の半数が『**読書をよく行っている**』と答えています。横浜市での取り組みである司書教諭の配置、学校図書館の利用、図書ボランティアによる環境整備等の活動が表面化した結果になりました。
- 田奈の地域を愛し、この地域のすばらしさを感じる**ことができます。
- 課題解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる児童**が多いです。
- 規範性が高く、友達が困っている時は進んで助けたい**と考えている子どもも多く、高い仲間意識になっています。
- ICTの活用が少ないことを5年生が感じています。



5 学校としての今後の取り組み

授業改善に向けた視点

課題や問題に主体的に関わり、自分の考えを深めようとしたり、広げようとしたりしている児童は、平均正答率が高くなっていることから、**主体的・対話的な学びを実現する授業場面を意図的、計画的に設定することが大切**だと考えます。

そのためには、学びが児童にとって必然性があるか、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」が働くようになっているかなど、**単元計画の見直しや教材、問題解決のための手立てを工夫**していきます。

ICTの活用に関しては次年度より実施されるプログラム教育を通して、より充実した運用を計画し、子どもたちの学びに生かしていきます。

家庭、地域との連携の視点

子どもたちが育つまち「田奈」に関心が高いことを大切にして、**地域と家庭がより一層連携できるように生活科、総合的な時間の学習などを通して関わり**を持ち続けていきます。

また田奈小スタンダードが運用され定着しているなか、規範性や仲間意識が高まったことが今回の調査でわかり、今後も改善を重ねながら、**子どもたちの健全育成につなげていきます。**